

平成27年度第3回周南市社会教育委員会議

議事録

◎日 時 平成 27 年 10 月 29 日(木) 10:00～11:50

◎会 場 周南市市民館 大会議室2

出席者

○ 社会教育委員 9人

有國委員、石川委員、大迫委員、大塚委員、國廣委員、瀬田委員、戸倉委員、廣澤委員、村田委員

【欠席:清木委員、徳原委員、長畑委員】

○ 事務局 10人

教育長、教育部長、

【生涯学習課】山本、貞光、重宗、山本、柏村、松村、千原 【学び・交流プラザ】岩崎

1 日程、議題

- (1) 周南市民憲章唱和
- (2) 委嘱状交付
- (3) 教育長 あいさつ
- (4) 事務局職員 紹介
- (5) 社会教育委員 自己紹介
- (6) 会長・副会長 選任
- (7) 議事録署名委員の指名
有國委員、瀬田委員を指名
- (8) 社会教育委員会議 議題
 - ①社会教育委員について
 - ②第3期周南市生涯学習推進プランについて
 - ③自由討議

2 社会教育委員会議 議事（要旨）

① 社会教育委員会議について

○会長 説明いただいたとおり、3つの議事が用意されています。順に沿って議論していきたいと思います。それでは最初に社会教育委員会議についてです。今回は第7期の社会教育委員会議の1回目ということで、あらためて社会教育委員会議についての解説をいただいて、その上で以降の議題にまいりたいと思います。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

▼事務局（社会教育委員会議の制度等について説明）

○会長 第7期の最初に際し、社会教育委員の役割ですとか、活動内容、これまでの協議されたテーマ等について説明いただきました。今説明いただいた点について、何かお気づきの点、ご質問等ありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

私は今話を聞いて、第5期の1回目に同様の話があったのですが、その当時の会長が、社会教育委員は教育委員会の会議に出席して意見を述べることができる、そういう重要な意味を持っている、と言われていたのを鮮明に思い出しました。それだけの責任感を持ってやるべき、やりがいのある、まちづくりに直結するような会議だな、ということが分かるかと思います。

いかがでしょう、特に新しく加わられた方、何か素朴な率直な質問等ありましたら、お願いいたします。

○委員 初めてでどの程度の意見を言っているのか、まだ見えない状況にありますが、社会教育ということで色々な意見というのを出せるのではないかと思いますし、地域でもガールスカウトだけでなく色々な活動をしていますので、役に立つことができたらと思います。今、地域協育ネットということで、県でも色々学習会とか研修会などを開催されています。そちらに参加すると市町で参加状況がすごく違っている。その辺りについて周南市ではどのように重点を置いて考えられているか、お聞きしたいと思います。

▼事務局 地域協育ネット事業については、中学校区を一まとまりと考えて、小学校・中学校のコミュニティ・スクール等が連携し、地域の0歳から15歳の子供の育ちについて地域の大人たちが話し合うものです。当然、周南市としても全市的に地域協育ネットの取組みを広め、協議の場を設けていくよう考えています。教育委員会としては、実践推進校区として3つの校区を定め、そこに職員等を派遣するなどして推進している形になります。現在関わっているのは、岐陽、福川、菊川中学校になります。それ以外にも、以前は住吉中学校、周陽中学校へも関わっていました。そのような形で、各校区に関わりながら、協育ネットの枠組み、協議する枠組みを作っている形になります。今後も3つの校区である程度の形が出来れば、また新しい校区に関わることで、全市的に協育ネットの取組み、協議の場を設けていきたいと考えております。

○会長 その他、いかがでしょうか。

○委員 正直何を質問しているか、分かりません。自分の経験では、役所の縦割り行政に悩まされてきたので、今回は少し勉強したいなと思っています。まだ、今日初めて見る資料ばかりですので、こんなことをしているのか、と勉強させてもらっているところです。

○会長 また色々な具体的な取組みの中で、お気付きの点などをお出しいただければと思います。よろしくお願いたします。それでは、一つ目の議題については以上で終わります。

② 第3期生涯学習推進プランについて

○会長 続いて、二つ目の第3期周南市生涯学習推進プランについてです。今日は冊子を用意いただきましたが、これから5年間、これに基づいて社会教育を推進していく一つの目標、施策、PDCAサイクルによる評価の基本になるものです。ということで、まずは私達が今一度

ですね、中身についてきちっと理解しておくことが重要だと思います。ということで、このプランの内容についてポイントを事務局より説明していただきたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

▼事務局（第3期生涯学習推進プランについて説明）

○会長 かなり詳しく説明をいただきましたが、推進プランは、これだけの分量の生涯学習の推進をどのようにしていくかを体系的に整理して、それぞれのポイントについて施策、目標値等が集約されたものです。第6期の委員が関わられて、色々と大変な思いをされながら、議論した上で作ったものです。それも思い出されつつ、第6期からの委員の方は補足いただく形でも結構ですし、また新しく委員になられた方は、ご質問でも構いません。何かありましたら発言いただければと思います。今日は、次の3つ目のテーマで、第7期で何に重点を置いて議論をしていくか、それを考える訳ですけれども、その一つのとっかかり、ベースにもなりえるかと思しますので、その意味でも今説明いただいた内容について、質問、ご意見をお願いいたします。

○委員 6期から関わっていますが、体制も行政の方で知恵を出されて作られていると思います。ただ、やはり一番大切なのは、何にも活動していない方をいかに社会活動に導くかということだと思います。コミュニティ活動にしても、あまり参加したことの無い方にとっては凄いハードルが高いという声をよく聞きます。老人クラブや婦人会の活動がありますけど、そこに一回入ってしまうと、何か役が回ってくるのでは、何かしなければいけないのではといった、恐怖感がある。そういうものが全然なく、ただ参加して楽しみたいという方が多くなっていると思います。となると、最初のとっかかりとして、楽しむだけで一回参加するだけでいいというものを工夫して作っていくことが大変大事ではないかなと思います。それに一回参加されれば、そこにおられる方と色々と話をされたりし、中身が分かってくればまた安心して、自分でも気付かないうちに段々ハードルの高いものに挑戦していけるとと思います。今、私がやっている学校支援のボランティアは、とにかく来て草取り作業などしてください、という風に声をかけると、それだけでいいなら行ってみようという方が多い状況です。色々な知識を持っていて、また勉強してみたいという思いを持たれているんですが、コミュニティの活動や公民館の講座でそれをやってみようとはなっていない。でも段々慣れてくると、公民館の活動にも出てみようかという気持ちになるので、高いハードルに階段をつけてあげること、入口の部分の裾

野を広げていくことで、社会教育に活動に参加する人数の底辺を広げていくことが大事だと思っています。以上です。

○会長 ありがとうございます。生涯学習の体制づくりにおいて、本当の意味で根付くようなきっかけづくりの視点が重要ではないか、というご指摘だったと思います。この点について何か事務局からコメントがありますでしょうか。

▼事務局 委員の言われる通り、最初から大きなことをやろうという、皆さんも引かれるところもあります。ちょっとしたことをきっかけに生涯学習、社会教育につながっていく、興味を持っていただく取組みというのは、委員の言われるとおりと考えています。今、学び・交流プラザでは、そのような情報発信も踏まえた上で、皆さんへのきっかけづくりにつながるものを、今後色々と検討しながら取り組んでいきたいと思っています。貴重なご意見、本当にありがとうございました。

○会長 私からも一点質問なのですが、現在、地方創生ということで、まち、ひと、しごと総合戦略というのが周南市も12月に出る予定になっていると思います。これも5年計画でやっていますが、そのキーワードは最終的に魅力あるまちづくり、これ以上衰退させずやっていくまちづくり。やはり人づくりというか教育、それらがすごい大きなキーワードになっているように思います。それとの5年間の整合というか、連携し合ってやっていくなど、ある程度意識してやっていかれるということなのか、確認しておきたいと思うのですが、いかがでしょう。

▼事務局 会長の言われる通りで、確かに私達もそういったところを意識しながらやっていく必要があると考えています。大きなテーマの中で、周南市でできることから、またそうした連携を取れるところから取っていくということを意識しつつ、今後進めていきたいと考えております。

○会長 ではよろしいでしょうか。できれば最後の自由討議に時間を割きたいと思いますので、まずは、第6期からの委員は復習を、新しい委員はこれからまたじっくり読んでいただいて、今後の議論を、この視点を頭に置きつつやっていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

③ 自由討議

○会長 では最後の議題、自由討議に入ります。こちらは、第7期でこれから色々なことを議論していくわけですが、その中での重点テーマ、広い意味では5か年計画を着実に進めていく

というのがありますが、その中でもこういう所を重点的に議論して、何か生み出していこうというものを決めたいわけです。もちろん今日決めきるわけではないのですが、その元になる、各委員の皆さんの教育、社会教育ですとか生涯教育に関する課題意識や、思いを自由な形でいただいて、それ以降の議論のテーマの絞り込みの重要な参考として進めさせていただきたいと考えています。内容は何でも結構ですので、そういった社会教育、生涯教育、さらには初等、中等、高等教育に関する思いやご意見、こういったことが課題ではないかだとか、この周南のまちづくりにという視点での課題など、ご意見いただければと思っています。できれば全ての委員さんに、それぞれの立場のご意見をいただきたいと思っていますので、ちょっと急ではありますが、みなさんに回そうかなと思います。よろしく願いいたします。

○委員 生涯学習の推進や、地域づくりを進める上で、公民館活動の役割というのはすごく大きいと思います。先程、公民館については公民館運営審議会があると言われましたが、こちらの社会教育委員会でも何か積極的に考えられないかな、という風に思っています。

○委員 私は、学校に関わる中で感じているのですが、いろんな活動をされている方が地域にはいる。コミュニティの活動が中心だが、後はスポーツクラブだとか、花を育てる会だとか、色んな形で公的に参加されている方がいるが、その方達をつなぐものがなかなかない。そういう人達とつながっていけば、色々な話を聞くことができ、こんな人がいるというボランティアの情報などももらえることが多い。コミュニティはコミュニティだけというように、活動される方は単体で活動をされているので、そういう活動をつなぐ方がいるとよいな、といつも感じている。やはり人材ということだと思うが、今どんな活動をしている方がいるかも全部は把握しきれてないと思うので、その辺をつなげていければよい、という風に思っています。

○委員 8月に39歳になり、来年は40代に突入します。先程委嘱状をいただき、任期は再来年の7月まであります。社会教育委員には実は20代から関わってきたので、これで20代、30代、40代に手がかかるかなと。一応、70ぐらいまでは行きたいので、もう20期ぐらい、第30期ぐらいまで関わっていきたいと思います。初めて関わった時には、まだ結婚して子供もいなかったのですが、今は、上の子が小学校5年生になりました。子供を持たない若者の立場で最初は携わっていましたが、実際子供が大きくなり、地域との関わりが増えてくると、また感じる場所も違うなと思っているところです。第6期でも会議で色々意見を出させていただき、その間には学び・交流プラザという施設ができて、一度、そこで社会教育委員会会議、視察も兼ねてやらせていただきました。その後も何度か寄らせていただいたのですが、非常にいい施設で賑わっているなど、若い方も年配の方もいらっしゃるし、駐車場もいつも満杯で、賑わっ

ているな、という印象を受けました。今回の推進プランもそうですが、非常に良い施設やプランなど、仕組みというのが整備されているので、それを我々市民がどう生かすのか、ポチポチそういうところを考えていかなければいけないと思います。せっかくいい計画、施設があるので、それを生かす市民の側の仕組づくり、声掛けづくりとか広め方というのを、こういう場で勉強させてもらいながら、実践していけたらいいなと思っています。

○委員 テーマが広すぎて、まだ何をしゃべっていいのかわかりません。お帰りになったら、ぜひ配布したパンフレットを見てください。15年間の成果が載っています。年間1万人に来場いただき、毎日ボランティアでがんばっていますが、15年通してやってきた中で感じたことを申し上げます。私が現場での体験上感じているのは、社会が変わってしまったなということです。共同社会は崩壊していることは分かっていたのですが、最近はますます無縁化社会化してきたと感じます。何が言いたいかというと、子供の面倒をみる大人がいなくなってしまった。もっと言うと、子供をペット扱いしている。子供のいじめの原因は、学校と家庭と地域です。文部省の言う言葉は、逆にとると全部子供にきている。これでは子供がかわいそうだというのは途中で分かっていました。そこで私はふれあいの森で、何とかもうちょっとのびのびとした子どもに育ててほしいなと、活動をしています。子供は立派です。駄目なのは私どもも含めて大人だと感じます。プランにもすごいことが書いてありますが、ではだれがやるのか、どこでやるの、というようなことをこれから模索されるかなと。

最後に嫌味をちょっと言うと、生涯学習という言葉はいっぱいあり、生涯現役もいっぱいあります。生涯現役人は世の中に腐るほど出てきています。ただし、生涯現役社会人と言われる方、社会の一部を照らす、参加する、そういう生涯現役社会人はほとんどいなくなってきました。だから、社会は崩壊すると言われても仕方ないのかなと。それともう一つ、色んな講演とかシンポジウムでお話するときには言っていますが、支援、ボランティアや志がある動き、活動をする人が中心になってやっていく社会なのか、地域、公民館主事、自治会長ではないけれども、だれがやるのかということです。私の10年間の見方では、地縁社会は崩壊している、形だけになっている。自治会の崩壊と一緒です。いろんな協議、議論、プランなどがあり、言葉としては見事にたくましくなっていますが、実際、汗を流して生涯現役社会人として、取り組んでいこうという人は非常に少なくなっている。もうダメかなというくらいに。現実には、私達ふれあいの森に、やってやろうかと仲間に入って来られる方はほぼ皆無です。15年前は非常に期待していましたが、今はもう、こんなことをしゃべるのも疲れたな、というくらい状況は変わってきたなと。それで、これからどうやっていこうかと思っていたところ、たまたま広

報で知りまして、この社会教育委員で色々な勉強して、もうちょっとやり方を変えるかな、というようなことを含めて応募しました。最後になりますけれども、10年間でいろんな所で、全国を含めて、講演とかシンポジウムに行きましたが、悔しいけど周南市と地元では一回もしゃべらせてもらった事はありません。とやかくは言いませんが、もうちょっと頑張ってみようかなど。先程隣の方が言われましたが、80歳までは現役社会人で行きたいと思っていますので、あと5年間くらい頑張っていきたいと思います。それ以上はちょっと無理かもしれませんが。色々言いたいことを言いましたが、もう一つだけ教えてください。学校教育はまた別に委員会はあるのでしょうか。これは社会教育だから、いかがでしょうか。

▽事務局 学校教育については、当然、教育委員会が所管している形になります。また、それぞれの学校に関しては、委員も関わられているようにコミュニティ・スクールという形で地域の意見を反映する形があります。社会教育委員会議の対象範囲は学校教育を除く部分になってきます。

○委員 では、コミュニティ・スクールは学校教育がやっているのか、社会教育がやっているのでしょうか。

▽事務局 主管課としては、学校教育課になります。

○委員 もっと言うのですね、放課後子供教室とか、児童クラブとか色々ありますよね。現場に来る子供たちに我々是对応していますが、全く違うんです。この差はどこからくるのかなど。文部科学省と厚生労働省に文句を言いたくなるくらい、違いがあります。詳しくは言いませんが、すごいです。この事もふまえてですね、皆さん専門の方がいらっしゃるの、もう少しなんとかできないかということも考えてほしいと思います。

○会長 ある意味で、この周南市の地域が抱えている問題を肌で、最前線で見られるということで、今後の議論にもそういった具体的な話をいただけたらと思います。貴重なご意見をありがとうございました。

○委員 私は独身時代、三世代の交流の活動をしたり、またその後、ガールスカウトの活動などをやっています。もう、20年以上ガールスカウトの活動を続けていますが、そこでご縁が出来て、今はそれこそ赤ちゃんから高齢者の方までの色々な活動に関わっています。それと、まちづくりの方の、先程夢プランと言われましたが、そちらの委員もさせていただいています。そういうところで今感じるのは、先程縦割りということも言葉に出ていましたが、市民は縦割にはならないということです。例えば、家庭、学校教育や、子育てといった分野では、子どもも小学生、中学生がいるし、大人も子育てをされている訳ですから、じゃあ何かをしようとい

う時に各世代が関わる必要があるのではないかと思います。それこそ、社会教育、教育ということで、色々な世代が関わるけども、そこにいる市民は一人なわけです。学校教育に関わっている私、社会教育に関わっている私ではなくて、地域で生活している私だと思うんです。今、私が活動する中ですごく感じるのは、ずっと以前は行政の方もそれぞれの課が関わっているところ、たとえば子育てサークルであっても、課が関わって補助金を出している所のサークルは把握しているけど、じゃあ市内でどれくらい活動しているサークルがあるか、といったことは把握していない、ということがあったわけです。今は課をこえて把握されて、そこに生かせるように活動していこうというのが、一緒に活動していてもすごく見える。そういった面でも色々変わってきていると思うので、もっともっとそこを強くしていくと、周南市も人づくりといったところで伸びていくのではないかなと思いますので、よろしく願いいたします。

○委員 先程、中学校の代表と言いましたので、学校現場の立場からお話をさせていただきます。全ての市内の小学校・中学校にコミュニティ・スクールが設置されて、4年目になりました。コミュニティ・スクールの大きな目的、ねらいというのは、学校を地域に開いていく、また、計画にもありますけれども、学校とか子供を核にして地域づくりをしていくこと。よく言われるのが、結局、コムスクというのはツール、方法であって、ねらいは、学校を開いて何をするのかと言えば、やはりその地域に住む子供たちがその地域の方と一緒に何か取り組んだり、あるいは地域の方に来ていただいて色々な支援をしていただいたり、そういった取組み、コミュニケーションを通して地域に、ああこの地域に住んで良かった、うれしい、楽しい、自分たちが大きくなったら何が貢献できるのかな、などを感じる。地域も子供たちもその中で、住んでいる地域、市、もっと大きく言えば国、そういうものに誇りを持って生きていく、そういう中でだんだん責任感とか貢献度も上がってくる。そういったことを一緒に考えていけたらいいと私は考えています。ということで、中学生ですから生徒にある程度色々な取組みを自分たちで考えてやっごらんという形で、自主的な取組みになればいいと思っています。4年目ですが、本当に温かい支援をいただいているので感謝しています。これが、コムスクだからではなくて、こういった精神が根付いてゆき、長く継続していくことで、よく言われる win-win の関係という形になればと。理想を話していますが、でも理想を話さないとみんなそれに向かっていくことはできないので、やはり理想を語りながら、それをしっかり話しながら、どんな地域にしたいか、子供たちもしっかり地域の一人なんだという自覚を持っていてくれたらいいなど。そういう取組みをしているという所で、中学校現場の話をさせていただきました。

○委員 地域づくり、まちづくりにつながる生涯学習ということが出ていますけど、地域づく

り、まちづくり、人づくりかなと。その人づくりという所を、みんなでどう考えていくのか、というのが大切と思っています。委員が持ってこられたふれあいの森の活動紹介の中で、基本理念の森は人を育む、人が森を育む、という所に私は注目しました。私も3人の子供を連れて京都から周南の山間部である鹿野に移住して17年が過ぎたんですが、幼稚園のときにこちらに帰ってきた息子が、大学に入学するときに家を離れていきまして、その時に僕が今まで受けた教育の中で一番役に立っているのは、果樹園のおじちゃんにナイフを持たしてもらって梨をむいたことだ、と言いました。やはり地域ですごく育ててもらったというのが、その中にありまして、山口県にいつか帰って来たいと本人も申しています。若い世代の定住ってというのは、山間部における地域づくり、まちづくりにとってとても重要なことです。だから今、育てている子供たちが帰って来たいと思うまちづくり、そのためにはやはり社会教育、人づくりが大事だなという風に思っています。

○委員 私も学校の立場、それから小学校の立場ということで、同じコミスク、それから福川地区は福川中校区で地域協育ネットをやっていますので、そういう関係のお話をしたいと思います。コミスクが始まって4年経って、何が変わっただろう、と今考えています。学校にはたくさんの方の地域の方が来てくださるようになり、学校支援は非常によくしていただいている。けれども学校側から地域への貢献をどれだけできているかなというのが、今一番の課題です。中学校ではよく地域の行事にボランティアとして生徒が参加したりしますが、小学校ではすべてやっていただいているという所があります。これからは、地域貢献として小学生でも地域に何かできないかなということと、それから小学生ではない私たち学校ができる地域貢献、それを考えていきたいなと思います。それから、他の委員も言われましたが、つなぐ、コーディネーター役ですね。これを育てなければいけないというのを非常に感じております。学校の中の、教員のコーディネーターもそうですが、地域の方のコーディネーター。本校でも2人ほどコミスクをお願いしていますが、実際には細かいところまでは難しく、最終的には学校長や教頭がやってしまうという所もあります。そういうコーディネーターの育成というのが必要と感じています。県では色々と研修会があり、セミナーパーク等でよくやっていただいているが、実際には地域の方はそこまで行って研修というのは、中々参加ができない面もあります。その辺りが近場でコーディネーターの研修会があつて、誰でもちょっと行って、気軽にそういう風な研修を受けられるようであれば、地域の方も誘って一緒に行きやすいかなと、まあ、期待をしたいと思っています。

それから、多くの方が色々な活動をされていますので、そういう生涯学習の成果をまちづく

り、地域づくり、そこまでは大きくなくてもいいので、ぜひ学校でそういう成果を活用していただきたい、と思っています。色々地域の施設に行ってお願ひするのですが、その辺がなかなか上手に、自分としてもコーディネート出来ていない。書道教室の方に学校でちょっと補助していただけないか、とお願ひしたりするのですが、いや学校はちょっととかですね。なかなかそういう人材を活用できていないので、そういうつなぎ役もしていきたいなと思っています。先程、公民館の話が出ましたが、公民館は本当にすごく大事、大切だなと思います。公民館がある学校にいた時は、本当に公民館の主事さんや職員さんに助けていただき、地域の色々なことができていたのですが、公民館がコミュニティ施設みたいな形式の地域もあるので、公民館ではないそういう場所はなかなか連携というのができない部分もあったりして、どこの地域にも公民館があるのは、ほんとにありがたいな、と思っております。以上です。

○会長 急な振りにもかかわらず、非常に有意義なご意見をいただきました。皆様の意見を聞かせていただきましたが、一つはやはり地域づくり。例えばこういうプランができたけれど、それを市民、地域に生かす為、浸透させるためにはどうしたらいいかというご指摘ですとか、実際の地域づくりを担っている各地域のボランティアやNPOの活動がバラバラにやられているので、それをつなぐ、つないで本当の意味での地域づくりに生かしていく、ようにしないともったいない、といった発想だと思います。そういったご指摘ですとか、今も副会長さんが言われましたが、学校からの地域貢献という視点ですとか、やはり人づくりですね。人づくりの大切さ、それが地域づくりにつながるということ。最大公約数的に言いますと、皆様の思いは地域、本当に無縁社会になっているそういう地域づくりの基本の所での人づくりの重要さというところでの教育というのが、みなさん課題意識としてお持ちなのかな、というのを思いました。そういう意味で、地域づくりをかなり意識した上での社会教育というのも、一つのテーマになりうるかなという風に感じた次第です。で、今日頂いた意見を元にしてこれから事務局にたたいていただく訳ですが、どうでしょう。事務局から何か感想というか、コメントがありましたら、次回につなぐ意味でも頂ければと思うんですが。

▽事務局 一応、ご紹介ですが、前会長からも今回は欠席ですが、今後どのようなことを話していけばよいかという話を伺いました。はからずも人づくりという点に触れられておられました。特に、この推進プランでは地域づくり、まちづくりにつなげていくというのを考える時に、その地域づくりに対して社会教育が何を、どのような貢献ができるのかと考えると、社会教育の役割はやはり人づくりということに、最終的にはなるのではないかと、という話をされておりました。そういう部分で、これからの議論として、社会教育がどういう風に地域づくりに貢献で

きるのか、人づくりに貢献できるのか、という部分を考えて行ってはどうかというお話をいただいていたので、一応ご紹介しておきます。

今後については、皆さんから色々な意見をいただきましたので、また会長とご相談させていただいて、今日は自由討論という形でしたが、次回からはある程度テーマを設定しつつ、皆様同士で議論を交わして頂く形で、議論ができるようにしてまいりたいと思いますので、また、会長と相談させていただければと思います。

○会長 ありがとうございます。もう一点だけ、公民館の地域拠点としての重要性というのも複数ご指摘がありましたので、こういった点もいかがでしょうか。

▽事務局 社会教育を話す上で公民館というのは当然入ってくる分野になりますので、その点についてももちろん、触れていく形になるかと思います。もちろん公民館運営審議会という組織もありますので、そこと連携を取りながら、社会教育委員会議の中でも協議を進めて行ければと考えております。

○会長 はい、ありがとうございました。それではですね、本当はもっと議論が出てくるのかもしれませんが、次回に持ち越しということにさせていただいて、以上で3つ目の議題の自由討議というのを終了させていただきたいと思います。

それでは、事務局にお返ししたいと思います。ありがとうございました。